

ちゅうござん広報

平成29年
3月号

第3回沖繩神経リハビリテーション・看護フォーラム

平成29年1月22日(日)に読谷村文化センター鳳ホールにおいて、第3回沖繩神経リハビリテーション・看護フォーラムを「リハビリテーション栄養と摂食嚥下ケア」と題し、開催致しました。



読谷村文化センター 鳳ホール

発表があり、摂食嚥下障害患者への治療効果など日頃の成果や課題について発表し、質疑応答を行いました。午後の部では、教育講演①において横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター若林秀隆先生より、「医原性サルコペニアを作らないリハビリテーション栄養」をテーマに攻めのリハビリテーションに必要な栄養管理について、各専門職種がエビデンスに基づいた評価を行い、アプローチすることの重要性を痛感させられました。また、教育講演②では医療法人光風会 北山病院摂食嚥下障害看護認定看護師の加藤節子先生より、「口から食べる喜びを支える」他職種で取り組む



加藤節子先生の講演での質疑応答

摂食嚥下障害患者へのケア」をテーマに他職種間で「食の倫理」を含め、地域で患者と関わることの必要性を学ぶ機会になりました。

今後とも県内外から専門分野で活躍されている講師をお招きし、回復期リハビリテーション病棟の質向上を目指し、多くの医療関係者が集う大会を開催していければと思います。

教育委員会 石川 丈



鳳ホールロビーでの集合写真

訪問リハビリテーション紹介

当院訪問リハビリテーションでは現在理学療法士(PT)2名、言語聴覚士(ST)1名が利用者様にサポートを行っております。

御利用頂ける方は①と②のいずれかに該当される方となります。

- ① 介護保険利用者で65歳以上の介護が必要と認定された人、また40歳以上で特定疾病が原因で介護必要と認定された人
- ② 医療保険利用者では在宅リハビリテーション指導管理として医師が必要性を判断した人



訪問リハのようす (頸部マッサージ)

当院では、入院時より入院担当のスタッフと在宅スタッフが密に連携を図り本人・家族(介護者)がより安心・安全にスムーズに在宅生活へ移行出来るよう努めております。在宅生活における訪問リハビリテーションの役割として在宅生活を安全・安心・快適に送る為に以下を重視しています。

- 心身機能の適切な評価と予後予測
- 住環境の評価・調整
- 福祉用具の評価・アドバイス
- 介護方法のアドバイス(家族・ヘルパー)

- 言語・嚥下も含めた心身機能の練習
- 自主練習指導
- 日常生活活動練習(コミュニケーション、移動、家事、外出など)
- 予防(肺炎、廃用、褥瘡、誤薬など)
- 地域・他職種(多職種)、家族との連携、

これにより利用者様の生きがいや家庭内・社会での役割の確認、あるいは再創出していくことでそれぞれの利用者様・ご家族様が強みを活かしてその人らしく生き生きと生活出来るよう支援に努めております。生活を考える際、在宅生活での確認事項、課題がある場合には退院直後から訪問リハを利用することでより安心して在宅生活をスタートできる可能性があります。お気軽に声をお掛け下さい。

リハビリテーション部
訪問リハビリテーション

理学療法士 照屋 聡
山田 泉
言語聴覚士 石原 昌賢



口腔ケア